霜月号

右馬允だより

11/27(日)
No 236

久々にお茶のお稽古にいけた帰り道 広域農道から見える南アルプスの山々は雪をいただき 夕暮れのスカイブルーの空にくっきりと浮び上がって 空には満月に1日早い大きなお月様。美しい景色を見ながらの運転は5分程続いたでしょうか。本日のご褒美です。膝が曲がらなくなって見苦しいお点前でやらせていただいておりますが 非日常を味わえるこの時間はとても大切な一時ではあります。お休みが多くて落ちこぼれ的な存在なのですが必死でついていこうとしています。お薄のお点前をやらせていただいた私のお茶杓の銘は虎落笛（もがりぶえ）、お濃茶をやられた友達の茶入れの銘は風越山、お茶杓は白雪（はくせつ）でした 濃茶の一服の為にお茶のお稽古はあると勇んで出かけてゆく私です。

今年の紅葉は見事でした。昔の(30年前)赤が近頃は見られないなァと このところずーっと思っていたものですから 真赤になったもみじの葉の1枚1枚が本当にきれいでした。9日の朝しっかり色がついて 2週間くらい楽しめ。霜と雨で地面にそれが移り 又それを楽しみ、 20日くらいまで戸を開け放ちライトアップをして楽しんでいましたが すでにそれもなくなって今は落葉はきで焚火を楽しみます。正介が毎年楽しみにしている「にたり」の柿は全部猿の夫婦が木の上で食べてしまいました。倶楽部の柿もです。次はきく芋をほじりだして食べるのでしょう。允(長男)の畑のほうれん草は鹿の朝食だか夕食になってしまい 少々力の抜ける事です。さつまいもだけは荒らされなかったようで 允作のいも干しが沢山出来ました。今年は3人の子供たちのお陰で 右馬允も今までにない大ブレイクで追われる日々が今に至っていてうれしい限りですが そのお客様の笑顔がみたいからと 弟の亮は兄の指令で小渋川にわかさぎを取りに毎日(晩)のように出かけていきます。この寒いのに大変なことと思いながら見送りますが いく気にはなれない今の寒さです。本日(28日)のお客様の終ったところで 長男允は東京の「パリの朝市」に助人として出かけて行きます。12月の忙がしい時のお手伝いです。お世話になった大貫シェフのお役に少しでもたてばと 私たちも応援団として送り出します。生きてゆくことは大変なことです。だから喜びを感じた時はご褒美だと思ってうんと楽しみたいと思います。友子母も増々元気で毎日の落葉はきと焚火を欠かしません。正介も痛めた膝も良くなってひとまず安心。私も子どもたちも楽しみの世界で自分を遊ばせ そして仕事、皆様もどうぞお元気でお過ごし下さいますように。